

ESG

サステナビリティ

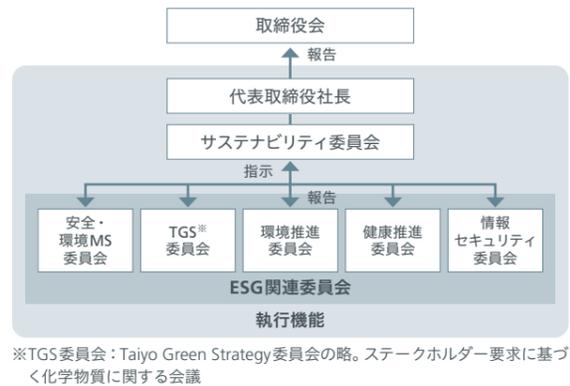
基本的な考え方

太陽誘電のミッションは、「おもしろ科学でより大きくより社会的に」です。創造性とイノベーションを発揮し、社会に対して革新をもたらすことを基盤とすることで、事業を通じた太陽誘電の持続可能な成長と、人びとの安全・安心で快適・便利な暮らしと社会の持続可能な成長を追求していきたいと考えています。これは太陽誘電が支持するTCFD、および国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)とも

合致するものです。このミッション実現のため、太陽誘電における様々な課題の中からより重要なものをマテリアリティとして特定しました。そして中期経営計画2025において、経済価値と社会価値を向上するための具体的な施策と数値目標を定め、取り組みを進めています。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は四半期ごとに行われ、マテリアリティを含む、サステナビリティに関する課題解決が審議されます。5つのESG関連委員会(安全・環境MS、TGS、環境推進、健康推進、情報セキュリティ)から活動報告を受け、それに対する審議を行っています。この内容はサステナビリティ委員会委員長である代表取締役社長が取締役に報告し、適切に審議されます。



従業員への啓発

マテリアリティの達成と社会課題の解決には従業員の理解が不可欠であるという考えのもと、サステナビリティの考え方やマテリアリティについて、また企業として取り組むべき社会課題について、定期的な啓発活動を行っています。新入社員向けのSDGs研修のほか、従業員・派遣社員を対象としたeラーニングや集合研修、役員向けの研修などを行っています。

E 環境関連活動

環境関連活動に関する基本的な考え方

太陽誘電は、企業の社会的責任を果たし、持続的に発展していく企業を目指しています。環境に関する取り組みは、太陽誘電が果たすべき重要な社会的責任の1つであると認識しています。このため、太陽誘電は、環境基本理念「かけがえのない地球を将来の世代に引き継ぐため製品の研究、

開発・設計、原材料の調達、製造、販売、付随するサービスその他あらゆる事業活動における環境負荷を低減します。」のもと、グローバルな視野に立って環境影響の改善に取り組んでいます。

事業活動と環境の関係

太陽誘電は、主に電子部品を生産し、顧客であるセットメーカーへ納入しています。電子部品はライフサイクルとして見た場合、使用時における環境影響は小さく、その大半は生産時におけるものであり、生産工程から発生する主な環境影響はエネルギー使用や水使用、製造に伴って生じる排気(CO₂を含む)、廃水、廃棄物などです。

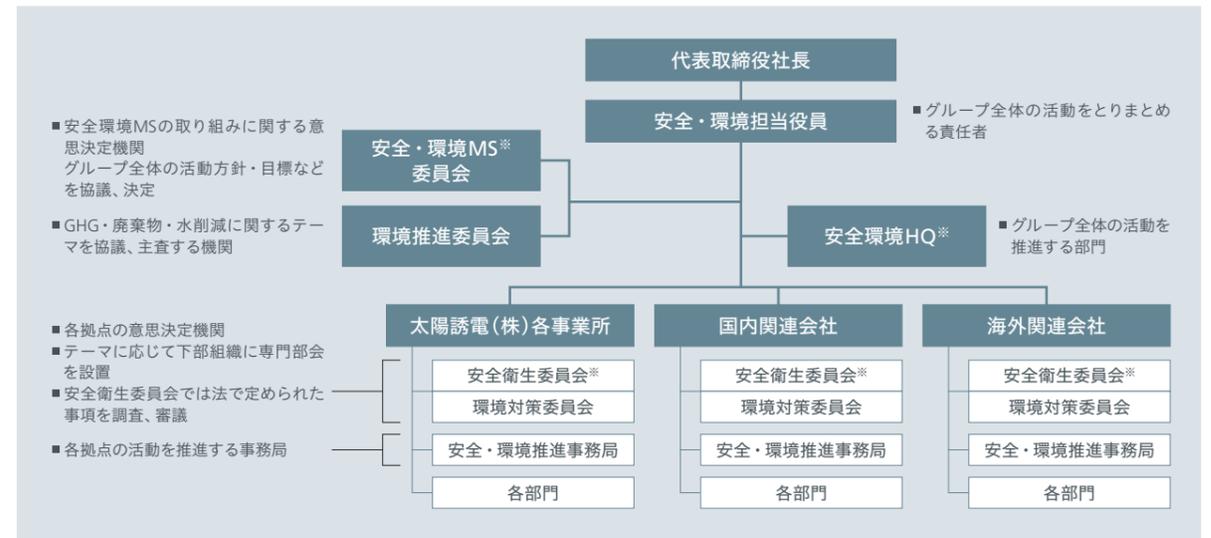
太陽誘電は、こうした環境影響を細かく把握・分析すると

ともに、投入する資源の極小化やプロセス改善による省エネルギー・省資源など、様々な施策を講じて環境影響の改善に努めています。また、太陽誘電の製品は電気・電子機器や自動車などに使用されているため、それらの商品の寿命が尽きた時点で廃棄物となります。そこで製品中の有害物質の除去についても対応を図っています。

安全と環境に対する推進体制

太陽誘電は、社長から任命される安全・環境担当役員をグループ全体の統括責任者とし、安全・環境マネジメントシステムの推進体制を構築し、運用しています。「安全・環境

MS委員会」「環境推進委員会」において、方針や取り組むべき課題を協議、決定し、決定事項を拠点の責任者が具体化し、拠点内に伝達・徹底・推進しています。



※MSはマネジメントシステムの略
※HQはヘッドクォーターの略
※安全衛生委員会には会社側と労働者側の代表者が選出され参加しています。

環境中期目標について

太陽誘電は、環境対応におけるマテリアリティ(重要課題)として「気候変動への対応強化」と「資源の有効活用と循環型社会構築への貢献」を特定しています。とくに地球規模の課題である気候変動に対し、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指した環境中期目標を設定しています。目標達成のために、脱炭素思想に基づくものづくりを推進

する中で、徹底した省エネ・創エネ・再エネを実行していきます。

環境中期目標と達成状況
<https://www.yuden.co.jp/jp/company/sustainability/environment/materiality/>